

パトロール

南流山

3月号

南流山駅前交番

7159-6211

作成者

西谷



子供を犯罪から 守りましよう

3月は大きな変化を迎える時期であり、保護者や学校関係者の方をはじめ地域社会で力を合わせ、子供たちを犯罪被害から守りましよう。

▲子供たちへお願い▼

5つのお約束(イカ・ノ・オ・ス・シ)を守りましよう

1 「イカ」・「行かない」・知らない人についてイカない。

2 「ノ」・「乗らない」・知らない人の車にノらない。

3 「オ」・「大声で叫ぶ」・「助けて」とおきな声を出したり防犯ブザーを鳴らす。

4 「ス」・「すぐ知らせる」・怖かったら大人のいる方へすぐ逃げる。

5 「シ」・「知らせる」・どんな人が何をしたか家の人に知らせる。

【問い合わせや相談はこちらへ】

○ 警察本部相談サポートコーナー (8時30分～17時15分) 043-227-9110

○ 最寄りの警察署生活安全課、交番、駐在所まで

自転車盗に遭わない ためには

一 自転車の防犯登録をしまししよう。 防犯登録をしますとお金がかかりますが所有者の住所・氏名・電話番号が直ぐに分かります。

二 備え付けの鍵の他に市販されている鍵を付けましよう。

備え付けの鍵は、場合によつては数秒で開けられる事が有ります。

三 住所・名字・電話番号を前後どちらかの泥よけ等にペンキで書きましよう。



ひったくりの被害防止対策

被害者の約95%は女性です。

被害に遭わないため、皆さんは犯人にスキを与えないよう、防犯対策を確実に実行して、被害防止に努め、次のことに注意しましよう。

○ 後ろからオートバイの音がしたら「ひったくりでは?」と警戒しましよう。

○ 「見返り運動」をご存知ですか? 後方を振り返り見て気をつけましよう。

○ 歩行中、バックなどは「たすき掛けにする」「胸にしっかり抱える」「車道と反対側に持つ」ようにしましよう。

○ 自転車の場合、カゴに「防犯ネット」「防犯カバー」を装着しましよう。

○ 暗い道や人通りの少ない道は避け、安全なルートを選んで通りましよう。

○ ガードレールなどで人と車を区分している歩道なるべく歩きましよう。

○ 不審者が近づいてきたと感じたら、コンビニなどの建物の中へ逃げ込みましよう

○ 携帯電話は身につけて持ちましよう。バックの中に入れたままでひったくられると、すぐに110番通報できなくなりまします。



不審者に注意

・ 2月13日流山市流山5丁目で発生した、小学生児童が自転車に乗った者に瓶を投げつけられるという事案
・ 2月3日に野田市で、発生した小学校児童に対する切りつけ事案

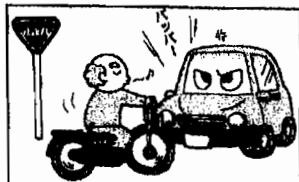
等の事案が発生しています。早期の通報が犯罪の抑止につながります。現在流山市内では、各学校の通学路警戒を「子供見守り隊」が実施中です。子供達の安全を守るためには皆さんの協力が不可欠です。



南流山交番事件簿

(1月14日から2月14日)

空き巣	15件
車上ねらい	7件
自転車盗	7件
自動車盗	2件
置き引き	2件
ひったくり	2件
その他	14件



交通安全だより

NO 26
平成18年3月
流山警察署

～止まらぬ自転車事故～

1. 平成18年1月中・流山市内の交通事故発生状況

発生件数	死者数	負傷者数	交通物損事故
50件	0人	59人	185件

2. 平成18年1月中・自転車の関係する交通事故発生状況

1月末現在	幼児	小学生	中学生	高校生	高齢者	その他	合計
発生件数	0	1	0	3	2	5	11
死者数	0	0	0	0	0	0	0
負傷者数	0	1	0	3	2	5	11

平成17年中 “3件に1件は自転車事故”

事故原因の8割が安全不確認

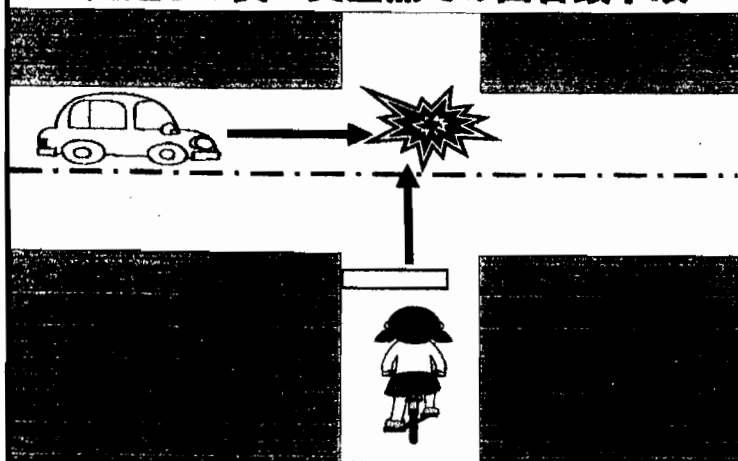
交通事故全体が減少傾向にある中、昨年発生した自転車の事故は、237件で1人死亡しております。

そのほとんどの事故は、交差点での出合頭事故で、原因は「見通しの悪い交差点での一時不停止」と「左右の安全不確認」です。

いずれの事故も一寸した不注意から発生しており、普段から気をつけていれば悲惨な事故を防げた事例もたくさんあります。

※ 最近の死亡事故事例

見通しの良い交差点での出合頭事故



発生日時	12月15日午後4時40分ころ
発生場所	流山市駒木地先交差点 市道

※ 事故防止のポイント

- ☆ ドライバーは
相手の動きに十分注意しながら運転しましょう。
「相手が自分の車に気づいて、避けてくれるだろう」
「まさか出てくるはずがない」
という自分勝手な思い込みは禁物です。
「だろう運転」から「かも知れない運転」を心がけましょう。
- ☆ 自転車は
自転車も乗れば車の仲間入りです。
一時停止等の標識には必ず従い、また見通しの悪い交差点では左右の安全を確かめてから通行する習慣をつけましょう。